

主は人の一步一步を定め  
御旨にかなう道を備えてくださる。  
人は倒れても、打ち捨てられるのではない。  
主がその手をとらえていてくださる。

(詩編 37篇 23-24節)

「つまらない毎日だな」。そう思ったことはありませんか？

中学生時代、そう思っていた時期がありました。それでも自分が頼んだわけでもないのにまた新しい一日がやってくる。朝がやってきて、一日がはじまるわけです。「なんで朝は来るんだろう。朝なんか来なきゃいいのに。新しい一日なんか来なきゃいいのに」。そのころの疑問であり、思いでした。

それから15年くらいたった頃、改めて自分の歩みをふりかえる時がありました。それまで歩いてきた「道」は、時には細くなったり、すごい回り道をしたり、あるいは道なき道だったりといろいろな状態でしたが、よく見てみると、一本の道となっていました。自分が道を作ったわけでもないし、道があると思って歩いていったわけでもない。ただ、毎日なんとなく過ごしていたらこういうことになっていたのです。とすると、これからも毎日毎日過ごしていくことで、道ができていく。「自分が道を作るわけじゃなく、何かが道を作っていくんじゃないのかな?」、そう思った時に、この聖書の箇所が浮かんだのです。

みなさんはどう感じたでしょうか。この『詩編』37篇 23節と同じような言葉が旧約聖書にあります。「人の一步一步を定めるのは主である。人は自らの道について何を理解していようか」。

一人ひとりに「道」があります。その「道」について先を知っていて歩んでいた。どこでどうなるかわかったうえで歩んでいたということはない。どうなるか、わかっていて歩んでいたら、何も心配することはないし、それほど気楽なことはないと思います。第一、何も考えずに歩いていくことができるんですから。しかし実際にはそんなことはありません。

さて、私たちが生きているこの社会を見た時、「正しい人」、言い方を変えると「いい人」にも、苦しみや不幸が起こることがあります。不思議と「いい人」ほどいろいろな苦勞を背負っていることが多いと思います。しかし永遠に、永久にその状態が続くことはそれほど多いというわけではないと思います。確かに人の一生を考えた場合、平穩無事で終わることの方が稀です。何かしらの苦しみというものが私たちに襲うことにな



ります。その苦難の内容の重い軽い、影響の大小などは人それぞれかもしれませんが、苦しみや不幸から逃れることができないのでしょうか。

この聖書の箇所はそれに対する一つの考え方を提示しています。それは「人は倒れても、打ち捨てられるのではない。／主がその手をとらえてくださる」。神は、人々が苦難に直面してもまったく力を失ってしまうことがないようにしている。人はたとえ倒れてしまっても、倒れたままでいることはない。倒れてしまうことによって、見捨てられてしまうのではない。それは人それぞれの形で、何らかの形で実感をしていることかと思えます。神がそのような助け手であるということはなかなか実感できないかもしれません。私たちが実感できる、その最たるものは「友人」という存在かもしれません。悲しみや苦しみを覚えた時、そのような状況の支えになっているのは「友人」であることが多いと思えます。

「本当の友人」ならば、どんな苦難・不幸の中にあっても、その人との関係性を持ち続けるはずで。そういう時こそ一緒にいてくれたり、話を聞いてくれたりしてくれる存在です。それと同様に、どんな苦しみ・不幸の中にあっても、神はその人との関係性を持ち続けている。神は私たちの手をずっととらえつづけてくださる。苦難の中にあっても神に見捨てられてしまうならば、神がその手を神の方から離してしまうならば、それこそ完全な崩壊が起こることになりますし、神との関係の断絶を意味することになってしまう。「人間は神に見捨てられた」ということになってしまう。もっとも、人間の側から一方的に、自分勝手に手を離してしまうこともあります。その際の「崩壊」・「断絶」の意味はまったく異なるものとなります。

ですから「人は倒れても、打ち捨てられるのではない。／主がその手をとらえてくださる」というところに救い、慰めがあります。神は私たちの道を備えるだけではない。ある人の言い方を借りれば「アフターサービスもしてくださっている」。しかもその「アフターサービス」は、見える形でされることもあるでしょうし、まったく見えない、あるいは気づかない形でされているかもしれません。いずれにても、何らかの形でなされている。しかも「万全な形」でのアフターサービスがなされているし、それが約束されている。保障されているわけです。家電製品やパソコンのように私たちがそれを「購入した」ことによって、修理や交換が「保証」されているわけではない。 $+ \alpha$ でお金を払って「総合補償」とかいうものを付けているわけでもない。後で代金が請求されることもない。神の側の一方的な思いによって保証されている。これ以上の「保証内容」はないし、これ以上万全な「アフターサービス」はないということになるのです。